

脳梗塞再発高リスク患者を対象とした抗血小板薬併用療法の有効性及び安全性の検討 CSPS.com のデータベースを用いた予後予測モデルの作成

近年のコンピューターの高性能化により、臨床研究にて取得したリスク因子、服薬などのパラメータと脳梗塞の再発、重篤な出血など臨床的なイベントの関係の機械学習が可能となった。CSPS.com のデータベースを用いて各種臨床パラメーターと予後の関係を定量化するリスクモデルを機械学習により作成する。申請者には心房細動の国際前向き観察コホートから機械学習にてリスクモデルを作成した実績があり (<http://dx.doi.org/10.1136/bmjopen-2017-017157>)、また登録後1ヶ月以内の時系列のPT-INRの計測結果から1-12ヶ月の臨床予後予測を可能とする人工知能モデル作成の実績もある (<https://doi.org/10.1093/ehjcvp/pvz076>)。

研究代表者および連絡先

〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋 143

東海大学医学部内科学系循環器内科学

後藤信哉

TEL0463-93-1121 (代)

e-mail: shinichi@is.icc.u-tokai.ac.jp

COI: 研究費：ブリストルマイヤースクイブ、小野薬品、奨学寄附金：サノフィ、ファイザー、ブリストルマイヤースクイブ、その他の報酬：The American Heart Association, the US (quality fee as an associate editor for Circulation, Thrombosis Research Institute, the UK (steering committee fee for GARFIELD-AF and GARFIELD-VTE)